

2023年度 「ひろしま」の資源を考えるプロジェクトレポート

【担当教員】

学部・学科・専攻	職名	氏名
代表者：芸術学部 美術学科 油絵専攻	教授	志水児王

【プロジェクトの概要】

広島近郊の各地域(4地域)を訪れ、事前学習を元に各地域での現地視察を行い、続いて作品制作を行う。近年コロナによる行動範囲の縮小もあるが、アトリエや室内でのモチーフやネット情報、写真などを使って制作する事が多い傾向にある油絵専攻の学生であるが、学外でのリサーチなどで知ってはいるが、行った事の無い場所や異なる視点から広島を再発見し、現在住んでいる広島の環境や資源に関する知識や理解を深めると同時にリサーチしたものをどのように制作に落とし込む事ができるのか？これまでの各自の制作方法に新しい試みを促す。

視察引率教員(志水・下菌) 展示サポート教員(志水・田中)

【プロジェクトの目的】

基町/中区/宮島といった、広島市立大学に通学する学生らが暮らしている地域であるが、あまり深くは知られていない場所や歴史はほぼ無限に存在するだろう。場所や環境の成り立ちの背景を学習及び体験し、作品制作を通じて広島の持つ魅力だけでなく、広島の課題や資源等の再発見に取り組む。

実施スケジュール

7/4(火) 13:05~初日ガイダンス：地域展開型授業での訪問先予定地(基町/エコリアム/本川小学校/宮島)の意図やスケジュールなどを確認。外部講師、高田真先生による広島のランドスケープの景観の変遷や歴史に関する講義を1コマ受講した。

視察1) 7/5(水) 13:05 大学出発 宮島へリサーチ、視察など(大学マイクロバス使用)

宮島では宮島の外周を視察するためクルーズを実施。各ポイントで観光会社専属ガイドさんから随時歴史に関する説明を行って頂いた。18:00 大学着

視察2) 7/6 13:00 大学出発 中工場エコリアム到着 13:30 視察及びツアー参加(約2時間)

7/15~27 リサーチした資料をベースに大学のアトリエで制作。

* 演習期間中は必要に応じて随時、個人またはグループ単位での面談やディスカッションを行いながら制作を進めた。

視察3/4) 7/7(水) 14:00 現地集合 本川小学校視察 ボランティアガイド 天野夏美さんに原爆投下直後のお話と本川小学校の展示物に関する詳しい解説を頂く。

15:30 徒歩で基町プロジェクトスペースへ移動。M98・Unite・レジデンススペース・展示スペースなどの視察。基町の歴史や大学の施設を知ると同時に横川に点在している広島市立大学がこれまで行ってきたアートプロジェクトや今後展開予定のスペースなどの説明を、プロジェクトスタッフの平石さんから説明頂き、地域と連携・協働しながら美術という領域でどのように社会と関わる事ができるのか？本町プロジェクト内容の講義を拝聴した。屋外視察を含めた2時間程度のツアー実施。平石さんから市へ事前に申請書を提出頂き、基町アパートの屋上庭園の視察も行った。

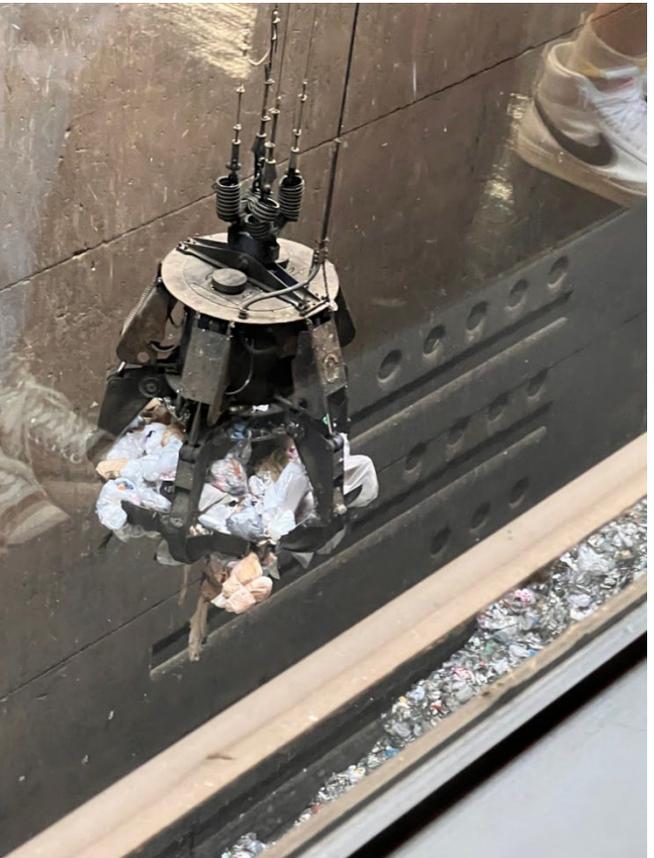
7/11～個人面談などを行い各自が体験した事や設定したテーマに従って各自制作。

7/28 学内で制作物の展示発表会を実施。各自展示方法のシュミレーションを行い、展示に使用する道具や部材の準備を各自で確認して行うように確認。展示方法に関しては必要であればアドバイスをを行った。

講評会を行いながら、各学生から今回のリサーチや広島についてのプレゼンテーションを行い、制作の意図やアイデアの共有やディスカッションを行った。講評会には4時間以上費やし、講評会後は展覧会として、芸術学部棟6階610アトリエを成果展として公開した。

宮島での視察風景 7/5



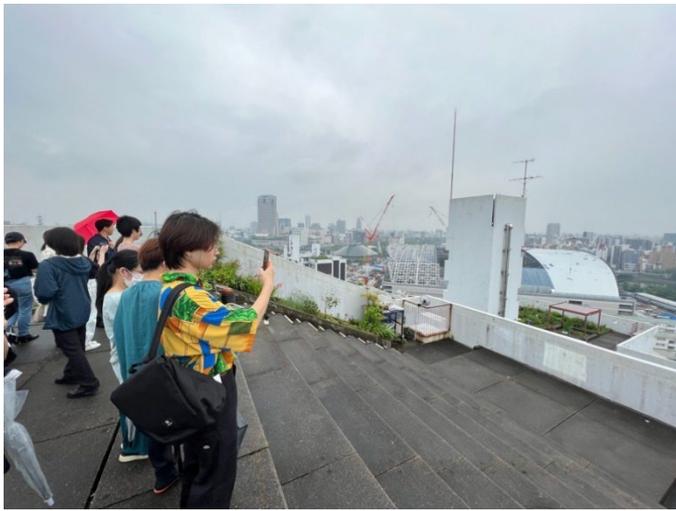


本川小学校での視察風景 7/7



基町での視察風景 7/7





【プロジェクトでの成果等】

視察終了後、翌週 7/11～7/28 まで個人面談などを行いながら各自が体験した事や設定したテーマに従って各自制作。また各自展示方法のシュミレーションを行い、展示に使用する道具や部材の準備を各自で確認して行うように確認。展示方法に関しては必要であればアドバイスを行った。

7/28 学内で制作物の公开发表会を実施。

講評会では各学生から今回のリサーチや広島に関してのプレゼンテーションを行い、制作の意図やアイデアの共有、作品を鑑賞しながらディスカッションを行った。

講評会には 4 時間以上費やし、講評会後は展覧会として、芸術学部棟 6 階 610 アトリエを成果展として公開した。

広島に住んではいるものの、基町プロジェクトの存在を知る学生は少なく、実際に訪れてみると、その佇まいや、屋上から見える光景が印象に残り、基町をテーマとして制作を行う学生が例年多く感じられる。

ネットや画像情報だけではなく、実際に身体で体験する事が重要である事が再確認できたのではないかと考えている。

